



研修医日記

作成者：岸 賢治（2年次）

自分でこんな人間だと思ってしまうえば、それだけの人間にしかたれないのです。

—— ヘレン・アダムス・ケラー

お久しぶりです。2年目、32歳になりました岸です。

日記をサボっている1年間。7人の先輩を送り出すとともに5人の後輩を迎え、勤務する先生方が4人も入籍・結婚され——さきの日記から1年以上経ちますが、よどみなく進んでいく周囲を見ると、自分自身は同じところに留まっているのではないかと思ってしまうます。

2016年4月の自分。もちろん、ただ上級医の先生や先輩の陰に隠れていたあのときよりは、すこし動けるようになりました。しかし、とにかく頼もしく心強かった先輩の姿に、自分は追いつくどころか影さえ踏めていないように思えるのです。加えて、あの時持っていたがむしやんな向上心を、どこか遠くへ置き忘れてきたような気がします。

——どうせ誰かがやるからいいだろう。

——どうせ私がやってもでしゃばりといわれるだけだ。

——どうせ私はこの程度だ。

向上心が人間を走らせるものだとすれば、こういった感情は脂肪のようなもので、必要以上の量はただ生きて走ることを不自由にするばかりです。しかし脂肪同様に排除には努力が必要なものでもあります。私は、自分の腹の脂肪が日々蓄積する一方であるのと同様まだそれを振り払うことができません。

これを書いている日、循環器内科での研修が終わり、あらたに耳鼻咽喉科での研修が始まりました。心根を立て直すことができるのか、どうか。2016年4月と、ある面では全く異なる、しかしある面では同じ意味で、私は新しいスタートを切りました。

私の荒廃ぶりを聞きつけて、先日、旧友の土屋先生がわざわざ訪ねてきてくれました。幾つになっても友人はありがたいものです。



※写真はイメージです

※日記の作成日と当ページへの掲載日は異なる場合があります。